

2021年11月12日

日米共同訓練及びオスプレイ参加に関する談話

日本労働組合総連合会北海道連合会
事務局長 藤盛 敏弘

防衛省は11日、日米共同訓練(レゾリュート・ドラゴン21)に米軍所属のオスプレイを組み込み、12月4～17日に日本国内の演習場において、過去最大規模の計4,100人が参加して実施すると発表した。

北海道の矢臼別演習場では12月5～9日の5日間、沖縄の米軍普天間基地所属のオスプレイ10機と東京の米軍横田基地所属のオスプレイ2機が訓練を行うとされている。最大12機のオスプレイが参加する今回の訓練は国内でも例のない規模である。

連合北海道は、この日米共同訓練、さらに墜落事故を繰り返し騒音や環境破壊につながる米軍のオスプレイ参加に強く反対し中止を求める。

第一に、北方領土が隣接する北海道・根室において、上陸強襲を任務とする米海兵隊が中心となった約4,100人もの日米両部隊が参加する過去最大規模の日米共同訓練は、隣国ロシアを刺激し、「領土問題の解決」という私たちの悲願を大きく後退させる。

第二に、オスプレイは開発段階から墜落事故を繰り返しており、ひとたび墜落事故が起きれば道民の生命と財産を奪う。防衛省が、そのようなオスプレイの飛行時間や経路を「米軍の機密」を理由に公開しない中、北海道での冬期間の飛行は極めて危険性が高く、断じて認めるわけにはいかない。

また、日米地位協定をたてに昼夜を問わず、日常的に日本の航空法が禁止する低空飛行を行うオスプレイの騒音は、酪農業に与える影響や環境破壊など、道民の平穏な日常生活に多大な被害をもたらす。

第三に、沖縄からの移転訓練が決して「沖縄の負担軽減」とはなっておらず、危険と公害の地方分散・拡大・固定化にすぎない。

連合北海道は、北海道の平和と軍縮、そして、北方領土問題の解決を強く願う立場から、日米共同訓練の規模縮小を求めるとともに、墜落事故を繰り返し騒音や環境破壊につながるオスプレイの参加に強く強く反対する。

以上